

## 会越国境 室谷川駒形沢～倉谷沢

行ってみたかった室谷川。最初に行くのは無理のなさそうなところで駒倉沢と決めた。入渓地点に向かう途中の車窓から見た独特の景色。スラブが育んだその景色に感動し、今回の遡行に期待を膨らませる。なのに、まさか駒倉沢を通り過ぎて駒形沢に入ってしまうとは…。

6月11日（土）：晴のち曇

打出沢との出合付近に車を止める。室谷川の澄んだ水と、沢の側壁の不思議な形に早くも心を奪われる。暫くは川沿いの林道を辿り、大久蔵沢出合付近で入渓する。なんて穏やかな流れ。こんなに小さくて静かな川が、ひとたび雨が降るとどの



不思議な景観にわくわくする

のような姿に変貌するのだろうかと密かに想像してみる。しばし河原歩きを楽しむと、ゴルジュ地形となり、泳ぎの必要な個所がたびたび出てきた。水は深いが流れは穏やかで、へつる努力をするのも面倒だったので何度か泳いだが、その結果もともとあまり調子の良くなかったその日のコンディションに後々影響を与えることになってしまった。

駒倉沢出合は暗いしとにかくぱっとしない。我々はその前をスルッと通過してしまった。本流には既にあるのではないかと思っていた雪渓処理をしたり、大きな釜を持つ滝をロープを出して登ったりしているうちに、本流が長すぎると口に出して言い合ったが、後の祭りである。我々は駒形沢に入ってしまった。気づいてから話し合った選択肢は3つ。(1)このまま駒形沢を遡行する(2)戻って駒倉沢を遡行する(3)駒形沢の支流に入って尾根を乗越して駒倉沢に入る。(2)はあまりにもばかばかしく、(3)はスラブに阻まれてしまいそうということで、素直にこのまま駒形沢を遡行することになった。私は持っていた地図が途中で切れていたため、連れてってください状態。今後はもっと広い範囲の地図を持つようにいなければならぬと反省。

駒形沢は特に困難な滝があるわけでもなく、西に真っ直ぐ、ゆっくりと高度を上げている。やがて雪渓が現れ、そのままスラブに突入となった。スラブに取り付いてからの高度の上がり方は急激で、細い沢型や藪を利用しながらの登りとなっ

【日程】

2016年6月11日（土）  
～6月12日（日）

【メンバー】

坂村（L）、田邊、栗原、吉澤

【地形図】

室谷、駒形山

【記】坂村



駒形沢を見下ろす

た。私はそれまでの体の疲れと、藪の途中でスパイクを失くしてしまったことから藪を掴んで登るのにかなりの力仕事をしてしまい、くたくたになってしまった。それでも高みから見下ろす景色は自分が今この場にいることが幸せだと感じさせてくれる。体を騙し騙し登ってなんとか稜線に辿り着いた頃には大分時間が経っていた。

辿り着いたのは駒形山のやや北、鞍部の手前あたりだった。倉谷沢に入るためには稜線を北東に向かい、1005P手前の鞍部から突入する。稜線上の藪はそれほど困難なものではなかったが、やはり藪漕ぎは疲れる。稜線を外れてからの下りは思ったほど急ではなかったが、沢型に入ってもなかなか水が出て来なくて辟易した。もはや随分歩いたし、一刻も早く幕場を見つけたかったが、なかなか適地は見つからない、結局18時までかかって430m付近の快適幕場まで下る羽目となった。

6月12日（日）：晴

もう随分下まで降りて来ているし、今日はたいしたものを出て来ないだろう。そんな油断が私たちを6時まで眠らせた。夜少し雨が降る予報だったが、どうやら降らなかったようだ。爽やかな朝日を浴びながらゆっくりと朝食を済ます。

倉谷沢は概して穏やかだった。のんびり竿を出しながらの下降となったが、残念ながら一匹も釣れなかった。懸垂下降が2か所。そのうち1か所は深い釜への下降だったが、渦を巻いているような釜ではなかったので、安全と判断した。

魚止山に向かう支流を過ぎれば左岸側に林道があるようだが、沢の中からではよく分からなかった。更にその下の太郎山に向かう支流を過ぎた辺りの堰堤から林道に上がる。爽やかな日差しの中、皆の笑顔と充実の沢旅を全身に感じながら林道歩きをのんびりと楽しんだ。



泳ぐのも楽しい

【グレード】3級上

【地図】室谷、駒形山

【行程】 6/11 駐車場所 (7:30) ~入溪 (8:10) ~駒形沢出合 (10:40) ~稜線 (15:30/15:50)  
~430 付近幕場 (18:00)

6/12 幕場 (8:00) ~堰堤 (12:00) ~駐車場所 (13:00)

